

# 1

## 将来ビジョン

長久手町の10年後の将来を考えた時、ここ30年ほどで劇的に変化した町西部の「都市」、21世紀に入っても昭和30年代とほとんど変わらない「田園・里山」の双方を有する魅力をどのように活かすかが、この会議に参加した多くのメンバーの共通課題であった。

その他にも、香流川や長久手田園バレー事業などを活かした自然の再生、リニモやNーバスを活かした公共交通の充実、小牧・長久手の戦いや万博の歴史資産、大学・文化施設など資産の活用、子ども、大学生、高齢者といった人のつながりなど、様々な課題について意見交換がなされた。

その結果、長久手町の10年後の将来ビジョンとして、「万博の理念を継承するまち」「みんながつながる花園のまち」「長久手“げいじゅつ”キャンパス」の3つにまとめた。そして、これらを実現することで人と自然にふれあう健やかでゆとりあるまちを目指す。

なお、これらの取り組みを進める上では、地域、あるいはNPO・ボランティアと行政との協働が不可欠である。

### 3つの将来ビジョンの提案

Vision

1

#### 万博の理念を継承するまち

長久手田園バレー事業の実績を活かした「川と農の再生」と、「エコ」をキーワードとして技術発展だけでなく自然と共生するライフスタイルへと転換していく「未来へつなげるエコ長久手」の実現を目指す。

Vision

3

#### 長久手“げいじゅつ”キャンパス

質の高い芸術・文化施設を有効に活用し、まち全体がキャンパスとなって芸術・文化を育むまちを目指す。歴史遺産や、愛・地球博で培った人・施設などを資産として活かし、新たにイベントを立ち上げ、世界へ発信する。

Vision

2

#### みんながつながる花園のまち

シニア層から子育て世代、子どもまで、あらゆる世代が楽しく暮らせ、愛着がもてるまちにする。子どもと大人が一緒にふれあう中から、自然とあいさつを交わし、文化や伝統が受け継がれる、そんな花園のまちを目指す。

地域、NPO・ボランティアと行政の協働（3つのビジョン全てに関わる）

